

杉並のまちを知り、災害に備える 我が家の防災

開催報告

目的：福祉のまちづくり杉並では“ひとりぼっちにしないまちづくり”を目指し、地域生協と医療生協が連携をして、居場所づくりや健康体操などを行っています。また、行政、社協などと一緒にまちづくりをすすめています。

主催：福祉のまちづくり杉並



開催日時：2016年3月10日（木）

10:00～11:30

開催場所：東京土建 杉並支部 3階ホール

講師：杉並区危機管理室 防災課地域防災係
防災対策担当・起震車担当

比留間 幸男氏

参加者：26名 お子さん1名

（事務局含む）



講師：比留間 幸男氏

今日は映像と話す言葉から、自分が何を出来るかのきっかけ作りにして帰ってください



始まる前に、自分の住所にシールを貼ってもらいました。

☆タイムスケジュール☆

10時 開会 挨拶・諸注意

10時5分 講演
「杉並のまちを知り、災害に備える」

講師 比留間 幸男氏

11時40分 アンケート記入
閉会挨拶



進行：
恩田 麻衣子さん
（コープみらい）



開会挨拶：今西二郎さん
（パルシステム東京）



お話しの前に、杉並区が行っているメールサービスやすぎナビ、カードについて説明を頂きました。映像を見ながら進みました。今日は、家具の転倒・落下・移動防止対策と備蓄についてしっかりと伝えます。

「グラッと来たら、あなたはどうしますか？」まずは、身の安全が最優先です。テーブル等の下にはいり、特に頭を守る！物の直撃を受けないようにする。揺れ始め3分間の初期対応が大事です。自分がその時に居る場所で対応が違って来る事も頭に入れておきましょう。「家具の転倒防止はしてありますか？」「起震車の体験はあるますか？」等、矢継ぎ早に話されました。災害が起こったら、消防・警察は手一杯になるので、すぐに現場に行けない事を認識する。被害にあったその時のために、自分で何とかする自助が必要となります。大地震に備えるために、何に気をつければいいか？避難場所や家族が落ち合う場所を決める。災害用ダイヤル171の活用。家具の固定はL型つかえ棒、家具の下にゴムを挟む等。備蓄品として人数分の水、食料品は3日分‘できれば7日分用意しておきましょう。’“今やろう”自宅に潜む危険を考えておきましょう！例えば、こういった物が危ないのか、安全なところはどこなのか、守るべきは何なのかを具体的にイメージしてみましょう。

大規模災害が起きた時には、今、居る人で何とかしなければならなくなります。そのためには、日頃から正しい知識を得、家族や近所の人と話し、助け合う気持ちを持つ事が大切です。自助・共助・公助と三位一体で防災対策でも考えられているが、まずは自助です！対策はしていても、いざという時は誰も自分の事で精いっぱいになるので、自分で対応する事が必要です。持ち出せる物の重さに限界があるので、家で用意している物を持って確認して下さい。一般に男性は15kg、女性は10kgといわれています。家族の構成によっても必要な物が異なり、その時に合わせた物を常に用意するように心掛けましょう！震災救援所と広域避難場所は違います。避難の仕方の基本としては、自宅にいて危険を感じたら、ブレーカーを落とし、ガス栓を閉め、防寒対策をし、丈夫な靴を履き、鍵を掛けて、小中学校に開設される震災救援所に避難します。生活必需品等の配布があります。災害時には、いつもの道が通れなくなったり、火災が出たりと町が変わってしまう事も想定しておきましょう。大切な命を守るために“こうすれば良かった！”と思いつく事は、日頃からの対策として家族と話し合っておきましょう

♥質問♥

Q：杉並区には、ポンプ車が何台ありますか？

A：区内に2つの消防署に2台ずつあります。

Q：阿佐ヶ谷地域に住んでいますが、木造家屋が密集しています。防災無線も聞こえづらいです。

A：場所によって聞こえ方が違い、日頃から苦情も出ているが、機械には限界があるあり、うまくいかない。

Q：避難場所となっている小学校は、校庭が狭く、とても地域の人を受け入れられるとは思いません。近くの私立高の方が校庭も広いので、そちらに行ってもいいですか？

A：あくまでも避難場所です。高校は2次救援所と位置付け、協定も締結しています。

Q：木造家屋地域での対策 A：広い道での避難経路を確認しておく事です。

Q：マンション住まいのリスク

A：エレベーターが使えなくなり、階段での移動となる。一般家屋よりも、チェック表を参考にして備蓄をしておくが良い。高層階では、家具移動もあり、危険です。

Q：感震ブレーカーは、どこに相談すればいいですか？

A：4月から杉並区でも地域は限定になるが、補助を行います。詳しくは担当まで問い合わせして下さい



東京防災を
是非、見て
下さい



★アンケートから★ 17枚提出

明日の3・11を控えたこのタイミングで、防災に関する基礎的な事を学習できた／地震が起こってから時間の経過を踏まえ、自分が何をすべきか理解しました／震災救援所と広域避難場所の違いがわかった／防災用品のチェック／自宅に潜む危険をチェックしておく／自助努力が一番の防災・減災と思った／“今やろう”を特に、備蓄・室内の備え／部屋の片づけ／災害にたいする準備が大切だと改めて感じた／冊子だけでは、頭に入らない事もスタンダードな内容だったので、よくわかった



★まとめ★

防災用品や備蓄品は揃えてはいるが、イザという時に使えるかとなると不安があるというのが、正直なところだと思います。講師の比留間さんから、家具の転倒防止、避難経路の確認、日頃から近所に声をかけておく等、何回もお話しされました。家に帰ったら早速、見てみます！という方が大半でした。災害は誰も起こってほしくはないけれど、自分の出来る範囲の事はやっておく！という思いは参加された方から感じられました。会場からは、避難場所となっている学校への不安や日常でも聞こえにくい防災無線への不安等、日頃から思っている事を出して頂きました。参加している方の共通の不安であったようです。防災無線で放送した内容が、電話でその内容が確認出来るサービスも紹介して頂きました。また、3月11日発行の杉並区の広報に、最新のQRコードが載っている事も参加者から情報提供がありました。予定していた時間を超えて、お話しして頂き、大切な事である事を再確認し、自分で出来る事を日頃から備えて行く事を心に留めた会となりました。



閉会挨拶：吉岡さん
(東京都生協連)